

日本語の「副詞類＋する」は韓国語でいかに現れるか

金 恩 愛

要旨 本稿は、日本語を基準言語とし、対照言語である韓国語の翻訳テキストを用いて、日本語の「副詞類＋する」が、韓国語でどのように現れるかを表現様相論の観点から考察したものである。語彙レベルでは、日本語の「する」に相当する単語「하다」が韓国語にも存在するものの、日本語の「する」は韓国語では、必ずしも「하다」という形で現れるわけではない。日本語の「する」は、韓国語の「하다」とよく似た働きを持っており、対照研究でもしばしば「する」:「하다」という図式で論じられる。しかしながら、本稿の計量調査に拠ると、「副詞類＋する」が韓国語で「하다」で現れる対称構造は29.2%、「하다」以外の形で現れる非対称構造は70.8%で、非対称構造のほうが圧倒的に高い割合を示している。これは、表現様相論の観点からの日韓対照研究の意義・重要性を裏付けられる結果とも言えよう。

キーワード：表現様相、基準言語、対照言語、対称構造、非対称構造

-----目次-----

1. はじめに
 - 1.1. 研究の目的
 - 1.2. 先行研究
2. 研究の方法
 - 2.1. 研究の概観
 - 2.2. 言語資料
 - 2.3. 分析方法
3. 「副詞類 (adverbial) ＋する」における表現様相
 - 3.1. 「副詞＋する」における対称構造と非対称構造
 - 3.2. 「形容詞の連用形-ク＋する」における対称構造と非対称構造
 - 3.3. 「指示副詞＋する」における対称構造と非対称構造
4. おわりに

1. はじめに

1.1. 研究の目的

本稿¹の目的は、日本語の「副詞類+する」で表現されるところのものが、韓国語ではどのように現れるか、そのく表現様相²の対比を描くことにある。表現様相を対照するに当たっては、本稿では書かれた言語、即ちテキスト（文章）³を主たる調査の対象とするが、必要に応じて、話された言語、即ち実際のディスコースから採集した資料も採用する⁴。語彙レベルでは日本語の「する」に相当する単語「하다」が、韓国語にも存在するものの、実際のく言語場⁵における文の実現体としては、日本語の「する」は韓国語では、必ずしも「하다」という形で現れるわけではない。つまり、日本語の「する」と韓国語の「하다」は、ある場合には一対一的に対応する対称構造として現れるのみならず、また別の場合には一対一的に対応しない、様々な非対称構造⁶として現れうる。本稿は、そうした表現様相の違いを、単なる語彙レベルの対照に止まらず、単語結合⁷のレベル、文のレベルまで視野に入れ対照するものであり、テキスト/ディスコースのレベルの対照も必要に応じて述べることにする。本稿はこうして「副詞類+する」をめぐる日本語のいかなる構造が韓国語での対称構造と非対称構造をもたらすのか、そうしたメカニズムを見据えようとするものである。

1.2. 先行研究

日本語「する」と韓国語「하다」の対照研究としては、李光秀（1985）、金香淑（1993）、生越直樹（2001）、鷲尾龍一（2001）、向井啓悦（2001）における日本語の「する」「される」

と韓国語の「하다」「되다」との関連性を中心課題とする研究と、主に一字漢語における日本語の「する」「하다」と韓国語の語彙目録による対応関係を調べている安平鎬・張根壽（2001）などがある。これらの先行研究は、日本語の「する」形が、韓国語において「하다」形になるか、「되다」形になるか、また、韓国語の「하다」形が、日本語において「する」形になるか、「される」形になるかに関心が向けられており、その対象は、日本語の単語に該当する単語が韓国語に存在するかどうかというような、ほとんど語彙レベルの考察に止まっている。その中で、金昶寧（1995）、朴宣香（1996）、許美子（1999）、金正淑（2002）などは、日本語「する」に関する研究ではあるが、韓国語「하다」との対照を通して、日本語の「する」が韓国語でどのように現れるかについて部分的に触れている。しかしながら、これら研究の多くは、自動詞・他動詞、本動詞・代動詞、実質動詞・形式動詞といった、日本語の「する」の性質をめぐる議論に焦点が当てられており、本稿が目的とする日本語の「副詞類+する」が韓国語ではいかに現れるかを取り上げた論考は未だないと言えよう。

2. 研究の方法

2.1. 研究の概観

本稿は、以上の日本語の「する」と韓国語の「하다」についての先行研究を踏まえつつ、以下の3つの点を考察の根幹に据え、研究を行うことにする。

- 1) 言語資料に現れた「副詞類+する」をもれなく研究の俎上に載せることにより、日

本語の「副詞類+する」の一部ではなく、「副詞類+する」全体が、韓国語でどのように現れるか、その全体像を描くことを目標とする。

- 2) 「する」と結合する前項要素の品詞に注目した分類や韓国語との対応における表現様相の現れ方による下位分類を行うことにより、日本語のいかなる構造が韓国語での対称構造と非対称構造をもたらすか、そのメカニズムを解明する。
- 3) 計量調査を行うことにより、日本語のどのような類型が、どのぐらいの割合で韓国語で対称構造と非対称構造で現れるのか、また、どのような類型において、対称構造あるいは非対称構造が際立つのか、タイプの分布を検討する。

考察を行うに際して、本稿は、上記の3つの点以外に、もう一つ、研究の出発点になるところの言語資料の扱い方について注目したい。以下、本稿で扱っている言語資料について見てみよう。

2.2. 言語資料

2.2.1. 言語資料1——類型調査に用いた言語資料

日本語テキストは、金恩愛(2003:14)になり、①東京生まれの作家による作品、②1990年以後の作品、③現代を背景にした作品、④テキストに東京以外の方言が著しく混在していない作品、という、4つの原則に基づいた。

タイプの収集や検討のために、小説・シナリオ・エッセイなどをはじめとし、新聞・雑誌などの書かれた言語と、主として聞き書き⁸による話された言語などの基本資料をも使用した。

また必要に応じ作例も使用した。作例については母語話者の確認を経た⁹。

全ての言語資料は、本稿末尾に示す。本稿の記述に必要な用例は、煩瑣にならぬ限りにおいて、日本語、韓国語訳とも、略号によって出典とページを明示する。出典のないものは聞き書きなどによるものである。

2.2.2. 言語資料2——計量調査に用いた言語資料

また、一定量のテキストを走査するにあたっては、作家による個人差という要因をより抑えるため、9人の作家の作品の冒頭から「する」の例文を各々200例ずつ、全1800例を走査した。

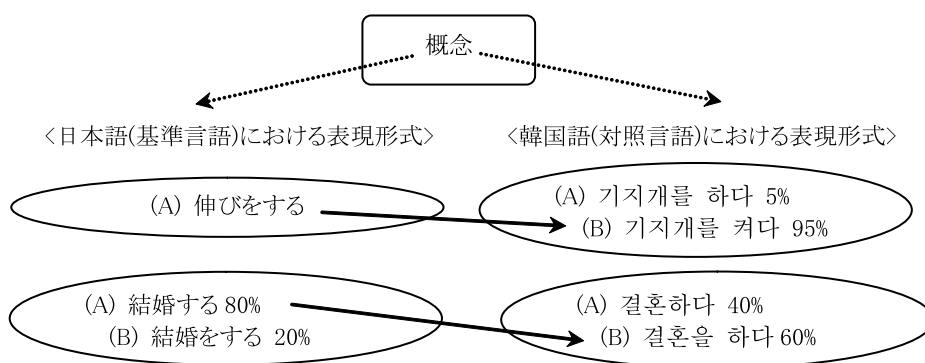
韓国語の資料は、上の9つの日本語テキストの公刊された翻訳である。資料の選定にあたっては、翻訳者の重複がないように配慮した。以下、計量調査に用いた日本語資料と韓国語資料を提示しておく。

2.2.3. 言語資料3——頻度調査に用いた言語資料

ある概念を表わす表現として基準言語には(A)タイプの表現形式のみ存在し、基準言語から照らされる対照言語においては基準言語とまったく同じ形の(A)タイプと、基準言語とは異なる形の(B)タイプ、(C)タイプなどの複数の表現形式が存在する場合、基準言語の表現形式(A)の等価表現として、対照言語における複数の表現形式から何を選択すべかは甚だ難しい問題であろう。そこで本稿では、単なる形態論的な対照であることを超えて、ある特定の「言語場」が与えられたとき、それぞれの言語が、表現のいかなるあり方を選択するかという、表現様相の対照を目指し、頻度(frequency)調

【表1】 計量調査に用いた言語資料——日本語（基準言語）資料と韓国語（対照言語）資料¹⁰

日本語（基準言語）	著者	韓国語（対照言語）	翻訳者
『きらきらひかる』	江國香織（1994）	“반짝반짝 빛나는”	김난주
『センセイの鞆』	川上弘美（2001）	“선생님의 가방”	서은혜
『恋』	小池真理子（1999）	“사랑”	오근영
『女たちのジハード』	篠田節子（2000）	“여자들의 지하드1”	이정환
『Shall We ダンス？』	周防正行（1996）	“셀위댄스”	한성봉
『コンセント』	田口ランディ（2001）	“콘센트”	오희옥
『冷静と情熱のあいだBlu』	辻仁成（2001）	“냉정과 열정 사이Blu”	양역관
『A2Z』	山田詠美（2003）	“A2Z”	이유정
『とかけ』	吉本ばなな（1996）	“도마뱀”	김옥희



【図1】 頻度調査を用いた基準言語と対照言語における〈等価の表現形式の示唆〉

査を等価表現を決める1つの手がかりとして提案するところである。

上の図1のように、基準言語である日本語の「伸びをする」といった表現形式(A)に対して、対照言語である韓国語に日本語と同じ表現形式(A)「기지개를 하다」と日本語とは異なる表現形式(B)「기지개를 켜다」の2つの表現形式が存在する場合、韓国語内部の言語調査から得られた頻度を両言語における意味の等価表現を決める一つの手がかりとするものである。これはまた日本語と韓国語の両方に複数の表現形式が存在する場合の等価の表現形式を決める際にも有効に機能するであろう。もちろん、頻度が意

味の等価表現を即決定するものではないが、本稿においてはこの言語場における頻度の観点から既存の研究よりも重視することとし、必要に応じて頻度調査を行うこととする。以下、本稿における頻度調査に用いた日本語資料と韓国語資料を示しておく。

新潮社（1995）『CD-ROM版 新潮文庫の100冊』（第二次大戦後の91作品を使用。テキストファイル化し、結合すると19,095KB）

한국과학기술원（KAIST）Concordance Program. KCP 한국어 용례 색인 (kaist

corpus) . 300Mbyte. 어절 단위 색인. http://morph.kaist.ac.kr/kcp/. 2003年2-12月

2.3. 分析方法

2.3.1. 分析方法1——日本語の「する」の現れ方に注目した項目分け

言語資料に現れた「する」は、前項要素の品詞的な特徴により、①「名詞類+する」、②「副詞類+する」、③「動詞類+する」と、前項要素として何も現れない形として④「なし+する」の4つの項目に分類し得る。以下は、本稿の計量調査に用いた言語資料に現れた「する」の項目別出現数である。

本稿では、出現した「する」のうち、「副詞類+する」について考察することとする。副詞類においては、「よく」、「明るく」といった形

容詞の副詞形は「形容詞の連用形ク」の項目で、「そう」「どう」といった「こ・そ・あ・ど」系の副詞は「指示副詞」の項目で、それ以外の副詞は、一括して「副詞」の項目で検討することとする。以下の表3は、計量調査に用いた「副詞類+する」の用例数である。

2.3.2. 分析方法2——前項要素の現れ方に注目した対称構造と非対称構造の下位分類

本稿における対称構造 (symmetric structure) とは、日本語の「する」に対応する形として韓国語において「하다」が現れるものを言う。つまり、「する」:「하다」の対称を基準に日本語と韓国語の表現様相を照らすのである。また、これに該当しないものを総称して非対称構造 (asymmetric structure) と呼ぶ。さらに、本稿

【表2】 テクストの計量調査に使用した日本語（基準言語）の言語資料における「する」の出現数

「する」の現れ方	名詞類+する	副詞類+する	動詞類+する	なし+する
小計	1114例 (61.9%)	308例 (17.1%)	363例 (20.2%)	15例 (0.8%)
1800例 (100.0%)				

【表3】 計量調査に使用した「副詞類」の数と項目分け

	副詞類		
	副詞	形容詞の連用形ク	指示詞副詞
きらきら	25	1	12
センセイ	34	1	8
恋	13	3	5
女たち	26	1	9
Shall	30	1	21
コンセント	18	1	9
冷静B	11	1	10
A2Z	17	1	8
とかげ	19	3	20
小計	193	13	102
308			

では「する」の前項要素の品詞にも注目し、単語の品詞レベルでの対応関係を見て「完全型」と「不完全型」とに下位分類を行う。

副詞部分においては、韓国語でも副詞表現で表される場合を完全型とし、それ以外の場合を不完全型とする。タイプ別は、日本語と韓国語の前項要素を対照して、一致する場合は「○」で、一致しない場合は「×」で表す。

3. 「副詞類 (adverbial) + する」における表現様相

本章では、「する」が副詞類と結合して現れる類型を考察する。考察の対象とする前項要素の副詞類とは、「はっきり」「にここに」「判然と」のような副詞と、「こう」「そう」「どう」といった指示副詞、「よく」「明るく」といった形容詞からの副詞形、「きれいに」「大切に」といった形容動詞からの副詞形などを含めるものであ

る¹¹。以下、「副詞類+する」における計量結果を見てみよう。

3.1. 「副詞+する」における対称構造と非対称構造

ここでは、副詞形以外の「副詞+する」における対称構造と非対称構造を考察する。

3.1.1. 「副詞+する」における対称構造

3.1.1.1. 「副詞+する」における「○」タイプの対称構造

日本語の副詞の部分、韓国語でも副詞で現れる「○」タイプの対称構造を見てみよう。

ベッドごとくぱりっと>してしまうほどである。(きらきら/34)

뽕송뽕송해질 정도다. (반짝반짝/113)

「ツキコさん、勝ちましたね」〈にここにこし

【表 4】 前項要素の現れ方に注目した対称構造と非対称構造の下位分類——完全型と不完全型

「する」の表現様相		対称構造		非対称構造	
		完全型	不完全型	不完全型	完全型
副詞類	副詞	「○」タイプ ：前項要素が一致する場合	「×」タイプ ：前項要素が一致しない場合	「×」タイプ ：前項要素が一致しない場合	「○」タイプ ：前項要素が一致する場合
	形容詞の連用形ク				
	指示詞副詞				

【表 5】 「副詞類+する」における対称構造と非対称構造

類型		副詞 (副詞形以外)	副詞形		計	%	
			形容詞の連用形ク	指示詞副詞			
対称構造	完全型	「○」タイプ	11	3	13	27	8.7%
	不完全型	「×」タイプ	61	1	1	63	20.5%
非対称構造	完全型	「○」タイプ	47	6	18	71	23.1%
	不完全型	「×」タイプ	74	3	70	147	47.7%
小計			193	13	102	308	100.0%

【表6】 「副詞+する」における対称構造と非対称構造

「する」の表現様相	対称構造		非対称構造	
	完全型	不完全型	不完全型	完全型
前項要素の現れ方	「○」タイプ	「×」タイプ	「○」タイプ	「×」タイプ
計	5.7% (11例)	31.6% (61例)	24.4% (47例)	38.4% (74例)
	100.0% (193例)			
	37.3% (72例)		62.7% (121例)	

ながら)、センセイは自分の徳利からわたしの杯に酒をごうとした。(センセイ/41)
 “쓰키코 상, 이겼군요.” 싱글빙글하며 선생님은 자신의 술을 내 잔에~ (선생님/39)

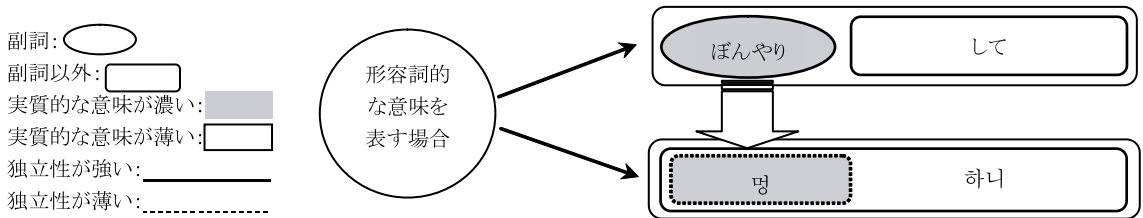
3.1.1.2 「副詞+する」における「×」タイプの対称構造

「副詞+する」における「×」タイプの対称構造は、「する」は「하다」で現れるが、前項要素の「副詞」の部分が韓国語で「副詞以外の形」で現れるタイプである。

この頃、時々家で〈ぼんやりして〉いる夫の姿を見ると、なぜか不安に思う。(Shall/29)
 요즘 집에서 가끔씩 멍하니 있는 스리아마

를 보면~ (셀/35)

上の例を見てみると、日本語の「する」と韓国語の「하다」のいずれも分離不可能な造語成分して機能していることがわかる。しかし、前項要素の現れ方に注目してみると、日本語の「ぼんやり」と韓国語の「멍」とでは、独立性において異なる性質を有する。日本語の「ぼんやり」は、独立して他の用言と結合し得るのに対し¹²、韓国語の「멍」は、「하다」以外の用言と結合し得ない非独立した造語成分である。このように、「前項要素+する」全体が、事物や人などの状態・性質や、それらに対する印象・価値判断や、人の持つ感情・感覚などの意味を表す、形容詞的な役割を果たす場合、両言語における前項要素の表現様相は異なって現れるのである。「副詞+する」における「×」タイプの対称構造のほとんどはこれによるもので



【図2】 形容詞的な意味を表すための表現方法1：日本語の分析的な表現と韓国語の総合的な表現

ある。以下、類似例を見てみよう。

「あなたがいなくなって、家の中がくがらんとしちゃった>わ」(きらきら/27)
 “네가 없으니, 온 집안이 헝하더구나.” (반짝반짝/30)

〈ぶりぶりした〉辛味が、なるほど酒によく合った。(センセイ/12)
알싸한 매운맛이 정말 술과 잘 어울렸다. (선생님/12)

〈ひんやりとした〉彼女の唇の感触にぼくは驚いた。(冷静B/25)
시원한 그녀의 입술 감촉에 나는 놀랐다. (냉정B/24-25)

目の前に、岡崎の広い肩がある。「うそ」「いいから」おそろおそろ、肩に手をかける。〈がっしりした〉手が太腿に触れ、体が浮いた。(女たち/46)
튼튼한 두 팔이 허벅지에 닿더니 몸이 허공으로 떠올랐다. (여자들/54)

緩慢な動作は中年女のそれだったが、色白で〈ふっくらした〉顔立ちのせいか、それとも、一重の大きな目と、雛人形を思わせる小さいが厚みを帯びた唇のせいか、鳥飼が想像していたよりもいくらか若く見えた。(恋/18)

완만한 동작은 중년 여자의 그것이었지만 희고 통통한 얼굴 생김새 탓인지~ (사랑/19)

佑太くんは会うたびにまるくふとってゆ

く。いくつ、と訊きおわるより早く、彼は〈ずんぐりした〉指を三本、不器用につきだした。(きらきら/37)
 그는 오동통한 손가락을 세 개, 어설피게 내민다. (반짝반짝/39)

以上の類似例においても、日本語の前項要素とは異なって、韓国語の前項要素の「헝」「알싸」「시원」「튼튼」「통통」「오동통」は、そのいずれも「하다」以外の用言とは結合し得ない非独立成分である。

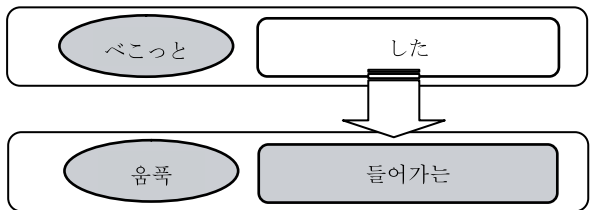
3.1.2. 「副詞+する」における非対称構造

3.1.2.1. 「副詞+する」における「○」タイプの非対称構造

「副詞+する」における非対称構造としては、前項要素の副詞の部分が一致する「○」タイプと一致しない「×」タイプの2つに分け得る。まず、前項要素の副詞の部分が一致する「○」タイプの非対称構造から見てみよう。

「エビアンの塩のことだけど、私、触ったときの、あのくべこつとした>感じが嫌なの。」(きら/33)

“생수병 말인데, 난, 잡았을 때 그 움푹들어가는 느낌이 싫어.” (반짝/36)
(lit. 베풀고 들어가는)



【図3】 代用形における表現様相の違い：代用表現と非代用表現

上記の【図3】の例のように、単語レベルにおいては、前項要素の日本語の副詞に該当する副詞が韓国語にも存在するが、そうした副詞との結合においては、日本語と韓国語とでは異なる表現様相を呈する場合が多い。つまり、日本語では「する」で表されるところが、韓国語では「する」以外の用言で表されるわけである。韓国語においても日本語と同じ表現形式の「움푹 하다」が可能であるにも関わらず、「하다」ではなく、「들어가다」といったより具体的な動詞が用いられるということも¹³、一種の代用形における表現様相の違いと言えよう。以下、テキスト調査に現れた類似例をあげておく。

どこが快晴なのか、とぼくは〈びっくりした〉。(冷静B/19)

이게 쾌청인가, 하고 나는 깜짝 놀랐다.
(lit. びっくり驚いた)
(냉정B/19)

〈うとうとして〉いたらしい。目が覚めると、山道を走っていた。(センセイ/57)

꾸벅꾸벅 졸았나 보다. (선생님/53)
(lit. うとうと眠っていた)

出社は杉山が一番早く、いつでもくガランとした>部屋に迎える声もなく入ってゆく。(Shall/17)

스기야마는 아무도 없는 텅빈 사무
(lit. 가란と空いた)

실로~ (셀/23)

男は中指で目頭を押さえて〈ぐりぐりしている〉。私と同じように二日酔いなんだろう。(コン/6)

남자는 중지로 눈구석을 지그시 눌렀다.
(lit. じっと押した)
(셀/6)

睦月は潔癖症なのだ。自分で何もかも〈ピカピカにしない〉と気がすまない。(きらきら/18)

무츠키는 무지 결벽스러워서, 제 손으로 모두 반짝반짝하게 닦지 않으면~ (반짝반짝/20)
(lit. ぴかぴかに磨かないと)

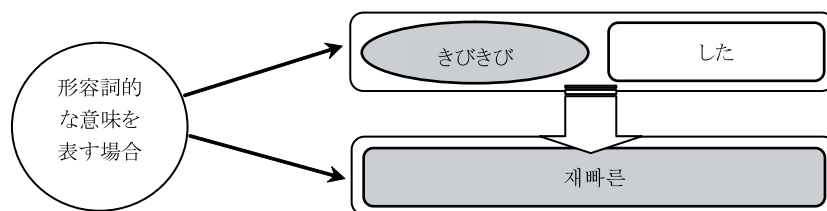
「センセイ、そういうの、『茸百科』で調べたの」とトオルさんが〈にやにやしながら〉聞いた。(センセイ/80)

“선생님, 그런 거는 『버섯 백과』에서 알아 냈나요?” 히죽히죽 웃어가며 물었다. (선 /75)
(lit. にやにや笑いながら)

3.1.2.2. 「副詞+する」における「×」タイプの非対称構造

3.1.2.2.1. 日本語の分析的な表現と韓国語の総合的な表現

「副詞+する」における「×」タイプの非対



【図4】 形容詞的な意味を表すための表現方法2：日本語の分析的な表現と韓国語の総合的な表現

称構造は、前項要素の副詞と「する」のいずれも一致しないタイプである。このタイプの典型例としては、「副詞+する」全体が、韓国語では「1つの用言」の形で現れるものである：

布美子は答えなかった。ドアにノックの音がし、若い小柄な看護婦が一人、〈きびきびした〉足取りで入って来た。(恋/33)

노크 소리가 나더니 몸집이 작고 젊은 간호사 하나가 재빠른 걸음으로 들어왔다.
((lit. 素早い))
(사랑34)

上の例を見てみると、日本語の「きびきびした」のところが、韓国語では「재빠른」といった1つの用言の形で現れている。つまり、形容詞的な意味を表すために、日本語では「副詞+する」のような分析的な表現を用い、韓国語では「単一の形容詞」のような総合的な表現を用いているのである。これは、3.1.1.2.の形容詞的な意味を表すための表現方法1に比べ、より一層明確に日本語の分析的な表現と韓国語の総合的な表現の特徴を物語る類型と言えよう。以下、形容詞的な意味を表すために、日本語の「する」はどのように用いられ、それに対応する韓国語の表現様相はどのように現れるか、テクストの具体例をもう少し見てみよう。

どこも同じようにしか見えない無機質な街中に広がる五月の街路樹の〈青々とした〉息吹は～ (冷静B/32)

어디를 보나 똑같은 무기물적인 거리에서 푸른 가로수의 싱그런 호흡은～ (냉정B/31)
((lit. 青い))

磨りガラスのドアを開けると横長のこれま

た〈ゆったりした〉バスタブがあった。(女たち/77)

유리문을 열면 역시 넓은 욕조가 있었다.
((lit. 広い))
(여자들/80)

笑いさざめく女子高の生徒たちのいつもの制服の一群が、不思議に〈ゆっくりとした〉速度で横切っていく。(とかげ/19)

갈갈거리며 웃어대는 여학교 학생들의 낮은 교복의 무리가 이상할 정도로 느린 속도로 가로질러 간다. (도/18)
((lit. 遅い))

まるで遠くの美しい風景を見ているように、自分の心までもがきれいになったような気分になれる感じ、ずっと失われていたそういう〈うきうきする〉ものがそのとき、香るようにふっとよみがえったのだ。(とかげ/30)

오랫동안 잊고 있었던 그런 들뜬 느낌이 그때 향기가 풍기듯이 불현듯 되살아났던 것이다. (도마뱀/29)
((lit. 浮つく))

上の例においても、日本語の「副詞+する」全体は、韓国語において、「푸르다」「넓다」「느리다」「들뜨다」といった1つの用言の形で現れている。また、以下のように、「-거리다」「-스럽다」「-대다」といった形容詞派生接尾辞を用いて1つの用言の形で現れるタイプも目立った。

エアコンが強すぎたらしい。咽の粘膜が〈ひりひりして〉嗚咽が込み上げてくる。(コンセント/5)

목구멍의 점막이 따끔거리고 속에서 뭔가 올라왔다. (콘센트/5)

私は〈イライラして〉言った。「さっき私が読んだ本でしょう。触るなどか、勝手にだすなどか、ちゃんと言ったらいじゃない」(きらきら/49)

나는 짜증스러워 따지고 들었다. (반짝반짝/52)

フロアで立ち尽くしている人たちの視線が杉山に集まっていた。杉山はくどギマギしながらも、ゆっくりと左手の方に目をやった。(Shall /41)

스기야마는 허둥대면서도 찬찬히 오른쪽으로 시선을 돌렸다. (셀/47)

本稿のテキストの調査においては、以上のような、形容詞的な意味を表すための表現方法として、日本語では「副詞+する」といった分析的な表現方法が、韓国語では1つの用言で総合される総合的な表現方法がより好まれることが顕著に現れた。

3.1.2.2. 主語における日本語の非明示型と韓国語の明示型——単肢言語と両肢言語¹⁴

「副詞+する」における「×」タイプの非対

称構造としては、以下のように、日本語の「副詞+する」全体が、韓国語では「名詞+가(-가/-이) +用言」の形で現れるタイプがある。

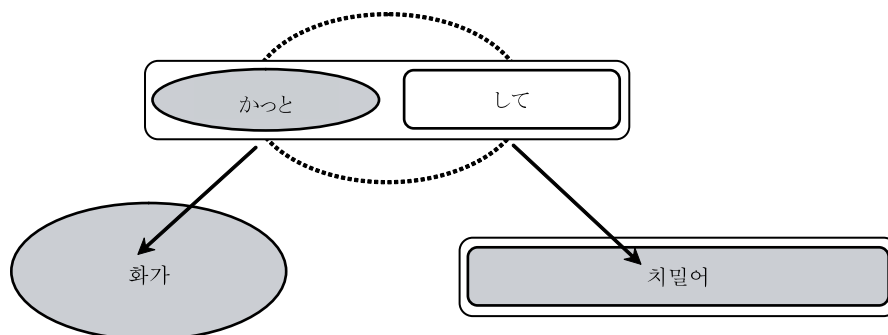
私はいっぺん〈かっとして〉、まずそばにあった雑巾を、それからガラスマイペットとそのふたを、そのいまましい木になげつけた。(きらきら/20)

나는 울컥 화가 치밀어, 우선은 옆에 있던 걸레를~ (반짝반짝/22)

(註. 怒りが込み上げて)

ここで、注目すべきことは、韓国語においては、日本語にまったく現れなかった、「名詞+が」といった新たな主語の形が現れているということである。「主語を必ず示す言語」と「必ずしも示さない言語」といった、主語をめぐる言語分類¹⁵において、日本語と韓国語はいずれも、必ずしも主語を常に言わなくてもよい言語と分類されてきたが、上のような例を見みると、主語の明示における両言語間の違いが認められる。以下、本稿のテキストの調査に現れた類似例をもう少し見てみよう。

「なるほど」ぼくは〈ほっとして〉、うれし



【図5】 主語における日本語の非明示型と韓国語の明示型：単肢言語志向と両肢言語志向

い気持ちになっていた。(ぼくの/66)

“음. 그렇구나. 이제 알았어.” 나는

마음이 놓여 ~ (나의/58)
(lit. 心が置いて)

駅に向かって歩き出すと下半身 (すうすうする)。空気が染みるような感じ。(콘센트/8)

역을 향해 걷고 있자니 하반신으로

바람이 들어와 공기가 몸속으로 스며드는 듯한 느낌이였다. (콘센트/8)
(lit. 風が入って)

成夫と初めて寝たのは彼に食事に誘われた日のことだ。連れて行かれたのは、レストランではなく彼の小さなアパートメントだった。裕福じゃないから自分で料理する、と恥し気に笑う彼の手には魚屋の袋がぶら下がっていた。(わくわくした)。(A2Z/27)

가슴이 두근거렸다. (A2Z/29)
(lit. 胸がときめいた)

「バカって事です。ただのバカ、向こうの人間なら、愚弄するとき以外使いませんよ」「ここは日本よ」(憤然として)更衣室を出た。(女たち/15)

울컥, 화가 치밀어 탈의실을 나왔다. (여자들/18)
(lit. かつと怒りが込み上げて)

以下の例は、「×○」タイプの対称構造で現れた例であるはあるが、これもまた主語における日本語の明示されない「主語」といった言語形式が韓国語では明示されるタイプである。

無表情の兄と目が合う。ぞっとした。(콘센트/11)

무 표 정 한 오빠 의 눈 과 마주 쳤 다.

등골이 오싹했다. (콘센트/11)
(lit. 背筋がぞっとした)

カーテンの波間からは女の横顔がとその上半身が見える。瞬間、(ドキリとした)。それは、その佇まいの美しさのせいだった。(Shall/11)

스기야마는 너무나 아름다운 그 모습에 순간적으로 가슴이 철렁했다. (셀/16)
(lit. 胸がドキリとした)

以下は、「名詞+φ+する」に現れた「主語における」日本語の非明示型と韓国語の明示型である：

帰国して小さな治療院を開いた。腕前がいいので(繁盛して)、従業員も雇った。(とかけ/37)

자그마한 치료원을 차렸다. 숨씨가 좋아 환자가 많아서 종업원도 고용했다. (도마뱀/35)
(lit. 患者が多くて)

以上のような、主語における日本語の非明示型と韓国語の明示型といった表現様相の違いは、両言語における統辞構造を考える上でも重要な問題であろう。

3.1.2.2.3. 日本語の副動詞¹⁶を用いる副詞節が、韓国語では連体節を内包する名詞節で現れる場合

本稿のテキスト調査における「副詞+する」における表現様相の中では、以下のように、「副詞+する」が、副動詞形 (converb) で用いられる場合、韓国語では、しばしば「形容詞+名詞+助詞」の形で現れる傾向がある。

『ガス灯通り』を真っ赤な軽自動車を運転し

ながら、昌子は少しくうきうきして、助手席に座る娘の千景に話しかけた。(Shall/27)

가스등 거리를 달리는 마사코는 약간 들뜬 목소리로 조수석에 앉아 있는 딸 치카에게 (썰/33)

男に同情し、いったいどうなることかとくらはらしながら、康子はこの光景をみまもっていた。(女たち/10)

어떻게 진행이 될지 불안한 마음으로 그 광경을 지켜보고 있었다. (여자들/13)

上の例を見てみると、日本語では副動詞形に統合される副詞節が、韓国語では、「-로/-으로」のような具格の助詞を伴って、名詞を核とする名詞句に変わっている。上の2例を含めた、本稿のテキスト調査に現れた僅かな例で、確かなことは言えないが、両言語間に見られるこうした構造の変化は注目に値いするであろう。また、これは、「들뜬 목소리로」と「불안한 마음으로」における「목소리」と「마음」が、それぞれ「들뜨다」「불안하다」の主体になるところを考えると、3.1.2.2.2.の主語における日本語の非明示型と韓国語の明示型とも深く関連するところと言えよう。

3.2. 「形容詞の連用形-ク+する」における対称構造と非対称構造

ここでは、例えば、「よく」「丸く」「明るく」「楽しく」のように、副詞的に用いられることが多い「形容詞の連用形-ク」を前項要素とする「する」について考察する。前項要素の一致・不一致については、品詞の一致を一致の条件とする。つまり、韓国語においても、「副詞(形)」

で現れた場合のみを前項要素の一致と見做すのである。以下、「形容詞の連用形-ク+する」における対称構造と非対称構造とをタイプ別に見てみよう。

3.2.1. 「形容詞の連用形-ク+する」における対称構造

3.2.1.1. 「形容詞の連用形-ク+する」における「○」タイプの対称構造

以下、前項要素の副詞の部分と「する」の両方が一致する「○」タイプの対称構造を見てみよう。

病院の方々がとてもよくしてくださるし、不便な点は何もありません。(恋/30)

병원 분들이 너무나 잘해 주셔서…… 불편한 점은 아무 것도 없어요. (사랑/31)

とかげはデリバリーのピザが好きだ。外食が嫌いだ。人間は嫌いじゃないけれど、人間を見たくない、と言う。わかる気がする。人間相手の仕事は、人間にあたり、疲れる。私たちはたいてい部屋で、照明も暗くして、ほとんど話もしない。ただ音楽をかけて、ぼうっとしていることが多い。(とかげ/38)

대개 우리는 방에서 조명도 어둡게 하고 말도 거의 하지 않는다. (도마뱀/37)

本稿の調査において、「する」の前項要素として「よい」と「暗い」といった形容詞の副詞形が来た場合は、すべて「○」タイプの対称構造で現れた。以下の例も同じタイプの対称構造ではあるが、表現様相において上の例とは異なる形で現れている。

僕らは試しに部屋を〈暗くして〉、そして電気を点けて、それから消してみたんです。(コンセント/46)

저희는 시험삼아 방을 어둡게 한 뒤 불을 켜다가 꺼보았죠. (콘센트/43)

「形容詞の連用形-ク+する」が、「先行」を表す副詞節で用いられる場合、韓国語では、「어둡게 한 뒤」のように名詞句の形で現れている。これは、4.1.2.2.1.の日本語の副動詞形を用いる副詞節が、韓国語では連体節を内包する名詞節で現れる現象とも関連するところであろう。

3.2.1.2. 「形容詞の連用形-ク+する」における「×」タイプの対称構造

以下、「する」は一致するが、前項要素が一致しない「×」タイプの対称構造の例を見てみよう。

「ほんとうにびょうきなの？」ぼくが尋ねると、小鳥ちゃんはちょっと気を〈悪くした〉ように、「もちろんほんとうにびょうきよ」と言う。(ぼくの/62-63)

“진짜로 병이 난 거니?” 이렇게 묻자 녀석은 좀 기분이 상했는지. ~ (나의/57)
 布美子は顔をあげた。とりとめのない表情が浮かんだが、すぐに消え、その顔には静かな拒絶とも思える沈黙が、さざ波のように拡がった。「(気を悪くしましたか) ?」(恋/33)

제가 기분을 상해 드렸습니까? (사랑/34)

本稿のテキストの調査における「×」タイプの対称構造としては、「悪くする」が「상하다」

の形で現れる例が多かった¹⁷。この際、「悪くする」は「気を」という対象語を必須とする。

3.2.2. 「形容詞の連用形-ク+する」における非対称構造

「形容詞の連用形-ク+する」のうち、69.2%は「する」が「하다」で現れない構造、即ち非対称構造である。テキストの計量調査に現れた数は少なかったが、両言語間の表現様相の違いが目立つところである。以下、前項要素が一致する「○」の非対称構造タイプと一致しない「×」の非対称構造を見てみよう。

3.2.2.1. 「形容詞の連用形-ク+する」における「○」タイプの非対称構造

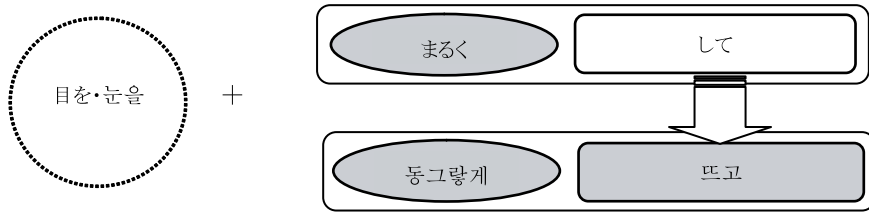
ここでは、「形容詞の連用形-ク+する」における非対称構造のうち、前項要素が一致する「○」タイプの非対称構造を見てみよう。

先生は祖父が七十五歳になるにもかかわらず、たった一人で日本からやって来たことを知ると、目を〈まるくして〉驚きを隠せなかった。(冷静B/115)

눈을 동그랗게 뜨고 놀라움을 감추지 못했다. (냉정B/113)

上の例を見てみると、日本語の前項要素「まるく」の部分は、韓国語でも「동그랗게」という形容詞の副詞形で現れ一致するが、「する」は、「뜨다」といった実質用言が用いられ非対称構造を見せる。これは3.1.2.1.の代用形における表現様相の違いに類似したものであろう。以下、具体例をもう少し見てみよう。

目を〈細くする〉とかすかにももの輪郭が



【図6】 代用形における表現様相の違い：代用表現と非代用表現

わかる。(女たち/102)

눈을 가늘게 뜨자, 사물의 윤곽만이 희미하게 보였다. (여자들/108)

「僕はやっぱり君なしでは生きていけない」彼は眉間の皺をますます〈険しくし〉、「あんなにひどいことを言って悪かった」とつぶやくと、つらそうに唇をかんだ。(きらきら/40)

“난 역시 너 없이는 못 살겠어.” 그는 미간을 점점 더 험상궂게 찌푸리면서~ (반짝반짝/43)

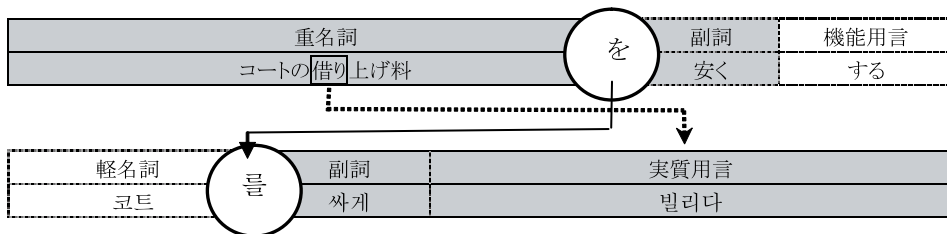
日本語と韓国語における代用形をめぐる表現様相の違いと言えよう。以下の例は、「日本語の重名詞構造の韓国語における軽名詞構造化」と「代用形における表現様相の違い」の2つの要因が複合化した表現様相の変容である。

沙織が自分の同僚を誘ったのは、員数を増やしてコートの借り上げ料を〈安くする〉ためだったのだ。(女たち/42)

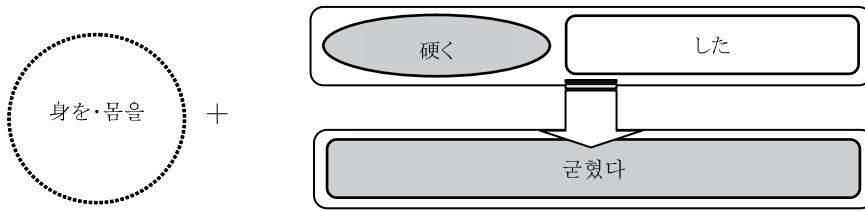
인원수를 늘려서 코트를 싸게 빌리기 위해서였다. (여자들/50)

上の例を見てみると、単語結合レベルでは、日本語の「まるくする」「細くする」「険しくする」に該当する表現が、韓国語にも、例えば、「동그랗게 하다」「가늘게 하다」「험상궂게 하다」のように可能であるが、実際の文においては、「하다」ではなく、「하다」が指し示すより具体的な用言を用いて現れている。これもまた

上の例は今までの代用形とは若干異なる表現様相で現れている。日本語の重名詞の「コート」の「借り上げ料」における「借り」のところが、韓国語では「빌리다」の形で現れる非代用表現である。この例においても、日本語の重名詞の韓国語における軽名詞化が認められる。このように、実際のテキストにおける日本語の「する」



【図7】 代用形における表現様相の違い：代用表現と非代用表現



【図8】動詞的な意味を表すための表現方法：日本語の分析的な表現と韓国語の総合的な表現

とそれに対応する韓国語の表現は、いくつかの要因が複合して現れることが多い。

3.2.2.2. 「形容詞の連用形-ク+する」における「×」タイプの非対称構造

「形容詞の連用形-ク+する」における「×」タイプの非対称構造としては、「前項要素+する」全体が、韓国語では、1つの用言で現れる類型を挙げることができる。

雨に濡れたドアに背中を押しつけ康子は身を 硬くした。(女たち/103)

비에 젖은 문에 등을 기대고 야스코는 몸을 굳혔다. (여자들/108)

上の例を見てみると、前項要素の「硬く+した」全体が、韓国語では「굳혔다」といった1つの動詞の形で現れている。以下、動詞的な意味を表すための、日本語の「形容詞の連用形-ク+する」といった分析的な表現が、韓国語ではどのように総合化されるか、その表現様相を見てみよう：

お気持ちはお察しいたしますがとにかく葬儀を行わないわけにはいかないのです。そしてそれは〈早くしなくては〉いけない。(コンセント/27)

“기분은 이해하지만 어쨌든 장례는 치러야 합니다. 그리고 서두르셔야 해요.” (콘센트/26)
(lit. 急がなければなりません)

染みを〈薄くして〉～(聞き書き)

얼룩을 빼고
染みを (lit. 抜いて)

鼻を〈高くして〉～(聞き書き)

코를 높이고
鼻を (lit. 高めて)

顔を窓に近づけ、少し背中を〈丸くして〉覗き込むように右斜め上を注視する。(Shall/25)

스기야마는 머리를 창문 가까이 대고 등을 약간 구부린 자세가 되어 뭔가 들어다보듯 오른쪽 위를 주시했다. (셀/30)
背中を (lit. 丸めた) 姿勢がなって

上の例を見てみると、日本語の「早くする」「薄くする」「高くする」「丸くする」といった分析的な表現が、韓国語では1つの動詞の形である「서두르다」「빼다」「높이다」「구부리다」といった総合的な表現で現れている。以下は、動詞派生接尾辞「-지다」を用いた総合的な表現の例である。

それで気分を〈よくした〉¹⁸⁾祖父は、～(冷静B/115)

기분이 좋아진 할아지는 ～(냉정B/113)

何のキノコですか、と聞くと、すでに顔を
〈赤くしている〉サトルさんが、「ベニテン
グタケ」と答えた。(センセイ/80)

무슨 버섯인가요, 하고 묻자 이미 얼굴이
시뻘개진 사토루 상이~ (선생님/75)

一浩は私が複雑な感情に襲われて言葉を失
う時、いつも、呆気ない程、簡単な物言
いで、私が捜しあぐねていた出口を見つけ
出す。拍子抜けしながらも見る間に気分を
〈軽くして〉いく私に肩をすくめながら彼
は言う。(A2/38)

가즈히로에게 타이밍을 놓쳐 맥이 빠졌다
가도 다시 기분이나 나아져가는 내게 어쩔
수 없다는 듯 그는 말한다. (A2Z /39)

以上のように、「形容詞の連用形-ク＋する」
における「×」タイプの非対称構造のほとんど
は、日本語の分析的な表現の韓国語における総
合的な表現化に拠るものであった。

3.3. 「指示副詞＋する」における対称構造と非 対称構造

ここでは、副詞として機能する「こう・そう・
ああ・どう」といった指示詞を扱うこととする。

以下、「指示副詞＋する」における対称構造と
非対称構造の計量結果をまとめておく。

3.1. 「副詞＋する」の型では、62.7%、3.2. 「形
容詞の連用形-ク＋する」の型では、69.2%で
あった非対称構造が、「こう」「そう」…とい
った指示副詞と結合する「指示副詞＋する」で
は、非対称構造が、86.3%と、「副詞類＋する」の
中では最も非対称構造が目立つ。以下、タイ
別に見てみよう。

3.3.1. 「指示副詞＋する」における対称構造

「指示副詞＋する」における対称構造は、
13.7%で、分布の比重は少ない。

3.3.1.1. 「指示副詞＋する」における「○」タイ プの対称構造

「指示副詞＋する」における「○」タイプの
対称構造は、前項要素の副詞の部分と「する」
の両方が一致するタイプである。「指示副詞＋
する」の対称構造の中では、12.7%と、出現頻
度が高い。

私はとほうもなく悲しくなって、声をあげ
て泣いた。泣いている自分が不甲斐なく、
〈どうしようも〉なくて、泣きやもうとす
ると呼吸困難になった。(きらきら/20)

【表 7】 「指示副詞＋する」における対称構造と非対称構造

「する」の 表現様相	対称構造		非対称構造	
	完全型	不完全型	不完全型	完全型
前項要素 の現れ方	「○」タイプ	「×」タイプ	「○」タイプ	「×」タイプ
計	12.7% (13例)	1.0% (1例)	17.7% (18例)	68.7% (70例)
	100.0% (102例)			
	13.7% (14例)		86.3% (88例)	

울고 있는 자신이 서러워서,
어떻게 할 수가 없어서~ (반짝반짝/22)
(lit. どうする)

いつまでも落ち込んでなどいない。〈どう
すれば〉認めてもらえるのか、~ (五体
/21)

언제까지고 낙심해 있을 수는 없다.
어떻게 하면 인정받을 수 있을까를~ (오
체/26)
(lit. どうすれば)

3.3.1.2. 「指示副詞+する」における「×」タイ プの対称構造

前項要素の副詞の部分が一致しない「×」タ
イプの対称構造の例としては、次の1例のみ現
れた。

「名前は?」 「知ってかどうか解ら
ないけれど、本宮冬子さん」 (A2/13)
알아서 뭐하러는지 모르겠지만…….
(lit. 何しようとするのか)
모토미야 후유크.” (A2Z /15)

3.3.2. 「指示副詞+する」における非対称構造

「指示副詞+する」のうち、86.3%は「する」
が「하다」で現れない非対称構造である。

3.3.2.1. 「指示副詞+する」における「○」タイ プの非対称構造

日本語の「こうして」は、韓国語では「이렇
게」の形で現れ、「○」タイプの非対称構造を
成す。

〈こうして〉ドゥオモの袂に立ち、大聖堂
の壁面沿いに光の源を見上げて、中世の
人々の意識の背伸びを想像するのが日課と
なってしまった。(冷静B/9)

이렇게 두오모 곁에 선 채 대성당의 벽면
(lit. こう)
을 따라 쏟아져 내리는 빛의 원천을 올려
다보며, ~ (냉정과/9)

また同時に、〈こうして〉ドゥオモを見上
げながら、少し後ろめたくなる理由も分
かっている。(冷静B/10)

또한, 이렇게 두오모를 올려다보면 좀 꺼
(lit. こう)
림칙한 기분을 느끼는 이유도 잘 알고 있
다. (냉정B/10)

上の例を見てみると、前項要素の「こう」の
部分は、韓国語でも「이렇게」で現れ、一致し
ているが、「する」の部分は韓国語では明示さ
れていない。「○」タイプの非対称構造はほと
んどこの類型に属する。以下は、「する」が「되
다」で現れる「○」タイプの非対称構造である。

〈どうした〉の。はじめてだね、病院に来
るなんて」 (きらきら/44)
“어떻게 된 거야. 처음이로군. 병원을 다
(lit. どうなったの)
찾아오다니.” (반짝반짝/47)

3.3.2.2. 「指示副詞+する」における「×」タイ プの非対称構造

「指示副詞+する」における「×」タイプ
の非対称構造は、前項要素の副詞の部分と「す
る」の両方が一致しないタイプである。テクス
トにおける頻度の分布を見てみると、「指示副
詞+する」のうち、68.7%を占め、分布の比重
は非常に大きい。以下は、日本語の「こうして」
それ自体が、韓国語では明示されないことによ
り、発生する「×」の非対称構造タイプである。

手には人の生活史が、刻み込まれている。
体つきから人格までも表われる。〈こうし

て) 都会の男達とはちがう暖かくたくましい手と出会ったのも、何かの縁かもしれない、と康子は思う。(女たち/8)

손에는 그 사람의 생활이 그대로 배어 있다. 체격과 인격까지도 나타난다. ____ ϕ ____ 도시의 남자와는 다른 따뜻하고 믿음직한 손을 만난 것도 인연일지 모른다고~ (여자들/10)

今〈こうして〉自分が運転する真っ赤な車にしても、休日の度に夫が洗ってくれているのだった。(Shall /29)

지금 ____ ϕ ____ 물고 있는 이 빨간 승용차만 해도 휴일마다 스키야마가~ (셀/35)

ラファエッロの描く聖母は世界一だと私も思う。世界中の人々がここで足を止めるのよ。実は私、ラファエッロと同じウルビーノの出身なの。あの街で生まれた者にとっては何よりの誇り。ここで〈こうして〉彼の絵を監視をして生きる人生を誇りに思っているのよ。(冷静B/48)

그 거리에서 태어난 사람의 자부심이기도 해요. 여기서 ____ ϕ ____ 그의 그림을 지키며 보내는 인생도 괜찮을 것 같아요. (냉정B/46)

以上の例を見てみると、日本語の「こうして」に該当する表現が韓国語にも存在するにもかかわらず、韓国語では言語形式としてまったく現れていない。この場合の「こうして」全体を接続詞として見るならば、これは、言語場と関わる接続詞における日本語の明示型と韓国語の非明示型といった表現様相の違いであろう。次の例は、一種の反語表現がもたらす「指示詞副詞＋する」における「×」タイプの非対称構造である。

なに馬鹿言っただよ。自分の部下接待して〈どうすんだよ〉。(Shall/6)

웬 쓸데없는 얘기야. 자기 부하를 접대하는 법이 어딤어. (셀/12)
(註.法がどこにあるの)
自分の部下を接待する

上のような日本語と韓国語の反語表現をめぐる両言語間の表現様相の違いは、「指示詞副詞＋する」構造のみならず、今後研究の進化が問われるところであろう。

4. おわりに

本稿は、日本語の「副詞類＋する」が、韓国語でいかに現れるか、その表現様相の対比を描くために、対称構造と非対称構造という構造的

【表8】日本語の「副詞類＋する」における対称構造と非対称構造

「する」の表現様相	対称構造 (하디構造)				非対称構造 (非하디構造)				小計
	完全型	不完全型			不完全型			完全型	
前項要素の現れ方	[00] タイプ	[0×] タイプ	[×0] タイプ	[××] タイプ	[00] タイプ	[0×] タイプ	[×0] タイプ	[××] タイプ	
副詞類＋する	8.7% (27)	20.5% (63)			23.1% (71)			47.7% (147)	308
	29.2% (90)				70.8% (218)				

な視点を足がかりに、両言語間に現れる表現様相の違いを見据えようとしたものである。以下のように、本稿では「副詞類+する」の現れ方に注目し、一定の計量調査を行った。

上記の【表8】の計量結果を見てみると、日本語の「副詞類+する」が韓国語で「하다」で現れる対称構造は29.2%、「하다」以外の形で現れる非対称構造は70.8%で、非対称構造のほうが圧倒的に高い割合を示している。限られたテキスト内での計量調査ではあるが、「副詞類+する」における「する」の70%以上が「하다」以外の形で現れるということは、しばしば「する」:「하다」という図式で論じられる日韓対照研究のあり方に示唆するところが多いであろう。また、「副詞類+する」における「する」の70%以上が「하다」以外の形で現れるという言語事実は、表現様相論の観点からの日韓対照研究の意義・重要性を裏付けられる結果とも言えよう。

注

- 1 本稿は、修士論文(金恩愛、2004年)の一部を加筆・修正したものである。
- 2 あることがらを言語上でいかに表現するかという、表現のあり方の総体を「表現様相」と呼ぶ。定義については金恩愛(2003)参照。
- 3 テキストとディスコースは意外に区別されていないが、ここでは野間秀樹(2003)にならって、書かれた言語をテキスト、話された言語をディスコース(談話)と呼んで区別する。
- 4 本稿では主として小説やエッセイを対象とする。これは、書かれた言語のうちでは、話された言語に近い表現をしばしば含んでおり、書かれた言語と話された言語が共有する表現がある程度は見るができるからである。

- 5 野間秀樹(1990:3,43)、노마[野間秀樹](2002:263)では、「実際の言語的な<場>」を、河野六郎を引きながら、「言語場」(linguistic field)と呼んでいる。また、亀井孝他編(1996)参照。
- 6 노마[野間秀樹](2002c:92-96)は、日本語と韓国語の要素が一対一的に対応する構造を「対称構造」、日本語と韓国語が一対一的には対応しない構造を「非対称構造」と呼んでおり、本稿における対称構造、非対称構造の名称は、それに拠るものである。
- 7 単語結合(*slovosochetanie*)の定義については趙義成(1997:2-3)参照。ソ連科学アカデミー(1990)は「一致、支配、接合という従位的結びつきを基礎として作られる統辞論的構造」とする。「主語+述語」の組み合わせを単語結合と見ない見解もあるが、本稿では趙義成(1997)や노마[野間秀樹](2002b)にならない単語結合と見做す。
- 8 聞き書きとは、電車での会話、図書館ロビーでの会話、学校の食堂や喫茶店、ファミリーレストラン、電話の会話、大学の講義、ラジオやテレビの放送内容といったものである。金恩愛(2003:14)参照。
- 9 日本語については、皆川裕樹氏、福岡照子氏、韓国語については、朴恵英氏のご協力を得た。記して感謝申し上げたい。
- 10 複数の言語を対照するにあたって、基準とする言語を「基準言語」、基準言語を基礎に照らす言語を「対照言語」と呼ぶ。定義については、金恩愛(2003:10)参照。
- 11 亀井孝他(1996;2003:1140)参照。
- 12 日本語の参考資料の用例を見てみると、「ぼんやり」は、「する」以外に、「眺める」「見る」「覚える」「考える」といった様々な動詞と結合して現れた。利郎は続けざまに煙草を喫い、私は左右に流れ去っていく青白い街灯を眺めていた。そして、ぼんやり考えていた。(一瞬の夏)
- 13 以下、韓国語の参考資料を用いた頻度調査の結果

を見てみると、「움푹 하다」の形で現れた例は僅か24例、8.6%で、残りの256例、91.4%は「들어가다」「패다」などのような「하다」以外の用言で現れた。

하다	「하다」以外の用言				
	들어가다	패다	파이다	꺼지다	その他
8.6% (24例)	31.8% (89例)	43.2% (121例)	9.6% (27例)	6.1% (17例)	0.7% (2例)
8.6% (24例)	91.4% (256例)				
100% (280例)					

14 定義については、亀井孝他（1996；2003：896）参照。「兩肢言語」とは、文の不可欠な要素として主語（subject）と述語（predicate）の両方を必要とする言語であり、「単肢言語」とは、文の核になる述語だけを必須の要素とする言語である。

15 亀井孝他（1996;2003：687-688）参照。

16 副動詞（converb）については、亀井孝他（1996；2003：1142-1143）、노마[野間秀樹]（2002：26）

17 以下のように、「気をわるくする」全体が「화가 나다」といった形で現れる例も見られた。

「ほら 気を 〈わるくして〉る」(ぼくの/118)

“거봐, 화가 났잖아.” (나의/103-104)

18 日本語では、同じ「気分をよくする」という表現であっても、韓国語では様々な形で表現され得る。ただし、タイプとしては、以下の例も「×」タイプの非対称構造である：

常に輪の中心にいることに、かなり気分を 〈よくしていた〉。(五体/29)

늘 아이들에게 둘러싸여 있는 것이 좋았다. (오체/34)

ボク自身は、後ろからくっついてくる子どもたちに気分を 〈よくしていたが〉、～(五体/29)

나 자신은 뒤꿈무니를 쫓아오는 아이들을 보며 기분 좋아했지만 ~ (오체/34-35)

参考文献

- (1) 日本語で書かれた文献：あいうえお順
安平鎬・張根壽（2001）「一字漢語+スル」と「一字漢語+하다（hata）」鈴木英一（2001）所収

李光洙（1985）「日本語する動詞と韓国語のhada動詞の対照研究」『日本語と日本文学』第五号 筑波：筑波大学

大阪外国語大学朝鮮語研究室（1986）『朝鮮語大辞典』東京：角川書店

生越直樹（1982）「日本語漢語動詞における能動と受動—朝鮮語hata動詞との対照—」『日本語教育』48 東京：日本語教育学会

生越直樹（2001）「現代朝鮮語の하다動詞における하다形と되다形」鈴木英一（2001）所収

影山太郎（1993）『文法と語形成』東京：ひつじ書房

亀井孝・河野六郎・千野栄一編（1996；2003）『言語学大辞典 第6巻 術語編』東京：三省堂

金恩愛（2001）「日本語と韓国語の表現様相について—直訳できない構造を中心に—」東京外国語大学 卒業論文

金恩愛（2003）「日本語の名詞志向構造（nominal-oriented structure）と韓国語の動詞志向構造（verbal-oriented structure）」第188輯。天理：朝鮮学報

金恩愛（2004）「日本語の「する」は韓国語でいかに現れるか——表現様相の対称構造と非対称構造——」東京外国語大学大学院 修士論文

菅野裕臣（1981）『朝鮮語の入門』東京：白水社

鈴木英一編（2001）『「하다」と「する」の言語学』筑波大学「東西言語文化の類型論」特別プロジェクト研究特別プロジェクト長 鈴木英一 筑波：筑波大学

野間秀樹（1993）「現代朝鮮語の対格と動詞の統辞論」『言語研究Ⅲ』東京：東京外国語大学語学研究所

村木新次郎（1991）『日本語動詞の諸相』東京：ひつじ書房

油谷幸利、門脇誠一、松尾勇、高島淑朗 編（1993;1997）『朝鮮語辞典』東京：小学館

鷺尾龍一（2001）「하다・되다を日本語から見る」鈴木英一（2001）所収

(2) 韓国語で書かれた文献：가나다順

金昶寧 (1995) '現代日本語の「する」動詞에 관한 研究-韓國語의 「하다」動詞와의對照를 中心으로-' 부산: 漢陽大學校大學院 1995年 碩士學位論文

金正淑 (2002) '「助詞+する」構文에서의 「する」의 多義性 研究' 부산: 東亞大學校大學院 2002年 碩士學位論文

金香淑 (1993) '「する」의 文法的 機能과 「하다」와의 對應關係考察' 서울: 建國大學校 大學院 1993년 碩士學位論文

남기심, 고영근 (1985) "표준국어문법론" 서울: 탑출판사

노마[野間秀樹] (2002a) "한국어 어휘와 문법의 상관구조" 서울: 태학사

노마[野間秀樹] (2002b) '한국어 단어결합론의 심화를 위하여' "國語學" 39집. 서울: 태학사

노마[野間秀樹] (2002c) '한국어 문법교육의 새로운 전개를 위하여-특히 일본어 모어화자를 위하여-' "외국어로서의 한국어교육" 27집. 서울: 연세대학교 언어연구교육원 한국어학당

무카이[向井啓哉] (2001) '韓國語의 '하다/되다' 動詞文과 日本語의 'する/される' 動詞文의 對照考察' 서울: 韓國外國語大學校 教育大學院 2001年 碩士學位論文

朴宣香 (1996) '動詞「する」의 多義性과 그 意味·用法에 관한 研究' 서울: 韓國外國語大學校 教育大學院 1996年 碩士學位論文

서울大學校 語學研究所 黃燦鎬, 李李順, 張奭鎭, 李吉鹿 (1988) "韓日語 對照分析" 서울: 明志出版社

서정수 (1991) "현대 한국어 문법 연구의 개관" 서울: 한국문화사

연세대학교 언어정보개발연구원 (1998;1999) "연세 한국어사전" 서울: 두산

요꼬오 사에꼬 (1987) '한국어의 '하다' 용언과 일본어 용언의 비교 연구' 서울: 한양대학교 대학원 1987년 석사학위논문

尹裕淑 (1998) '行爲動詞「する」「やる」의 意味·用法의 比較考察' 서울: 韓國外國語大學校 教育大學院

1998年 碩士學位論文

趙義成 (1997) '현대한국어의 단어결합에 대하여' "朝鮮學報" 第163輯. 天理: 朝鮮學會

조희철 (1999;2000) "진명 뉴밀레니엄 日韓辭典" 서울: 진명출판사

左韻政 (1996) '일본어動詞의 連體形 する·した에 관한 一考察' 부산: 東亞大學校大學院 1996年 碩士學位論文

한글학회 (1992;1995) "우리말 큰사전" 서울: 어문각

許美子 (1999) '日本語 動詞「する」에 관한研究-韓國語와 對照 比較를 中心으로-' 경북: 慶尙大學校 教育大學院 1999年 碩士學位論文

홍재성의외 (1997;1999) "현대 한국어 동사 구문 사전 (기초편)" 서울: 두산

(3) 英語で書かれた文献：abc順

Hinds, John (1986;1999) *Situation vs. Person Focus* 東京: くろしお出版

Ross, John Robert (1973) *A fake NP squish. New Way of Analyzing Variation in English:* Washington, D.C.: Georgetown University Press

Somers, H.L. (1987) *Valency and Case in Computational Linguistics.* Edinburgh University Press.

●言語資料 1 と 2 ——類型調査と計量調査に用いた言語資料

*は、計量調査と類型調査の両方に用いた言語資料。
() は、出典の略号。

江國香織 (1994; 2002) 『きらきらひかる』 東京: 新潮社* (きらきら)

江國香織 (1997; 2001) 『ぼくの小鸟ちゃん』 東京: 新潮社 (ぼくの)

乙武洋匡 (1998) 『五体不満足』 東京: 講談社 (五体)

鎌田敏夫 (1995; 1998) 『29歳のクリスマス』 東京: 新潮文庫 (29歳の)

川上弘美 (2001) 『センセイの鞆』 東京: 平凡社* (セ

ンセイ)
小池真理子 (1999) 『恋』 東京：早川書房* (恋)
篠田節子 (1999) 『女たちのジハード』 東京：集英社* (女
たち)
周防正行 (1996) 『Shall Weダンス?』 東京：幻冬社*
(Shall)
田口ランディ (2001; 2003) 『コンセント』 東京：幻冬
社* (コンセント)
辻仁成 (1999; 2001) 『冷静と情熱のあいだBlu』 東京：
角川書店* (冷静B)
山田詠美 (2000; 2003) 『A2Z』 東京：講談社* (A2Z)
吉本ばなな (1996; 1999) 『新婚さん』 『とかげ』 東京：
新潮社* (とかげ)
가와카미 히로미 (2003) 서은혜 역 “선생님의 가방” 서
울: 청어람미디어* (선생님)
고이케 마리코 (1996) 오근영 역 “사랑” 서울: 소담출판
사* (사랑)
다구치 란디 (2001) 오희옥 역 “콘센트” 서울: 한숲출판
사* (콘센트)
오토다케 히로타다 (2002) 전경빈 역 “오체불만족” 서
울: 창해 (오체)
수오 마사유키 (2000) 한성봉 역 “셀위댄스” 서울: 동아
시아* (셀)
시노다 세즈코 (1999) 이정환 역 “여자들의 지하드1” 서
울: 자유문학사* (여자들)
야마다에이미 (2002) 이유정 역 “A2Z야마다 에이미 소
설” 서울: 태동출판사* (A2Z)
에쿠니 가오리 (2001;2002) 김난주 역 “반짝반짝 빛나
는” 서울: 소담출판사* (반짝반짝)
에쿠니 가오리 (1999) 이영선 역 “나의 작은 새” 서울:
도서출판 문일 (나의)
요시모토 바나나 (1999;2002) 김옥희 역 “도마뱀” 서울:
민음사* (도마뱀)
츠지 히토나리 (2000;2002) 양역관 역 “냉정과 열정사

이Blu” 서울: 소담출판사* (냉정B)
카마타 토시오 (2000) 권남희 역 “29세의 크리스마스”
서울: 리드북 (29세의)

●言語資料 3 —— 頻度調査に用いた言語資料

(1995) 『CD-ROM版 新潮文庫の100冊』 新潮社。(第二
次大戦後の91作品を使用。テキストファイル化し、
結合すると19,095KB)。
국립국어연구원 (1999) 「21세기 세종계획 균형말뭉치」
국어 기초자료 현대 국어 균형 말뭉치
한국과학기술원 (KAIST) Concordance Program.
KCP 한국어 용례 색인 (kaist corpus). 300Mbyte.
어절 단위 색인. <http://morph.kaist.ac.kr/kcp/>. 2002
년 6-9월